

# 第1回「城址公園のこども遊園地の在り方に関する懇談会」主な意見と在り方を考える視点

資料

主な意見	こども遊園地の在り方を考える視点等
<div>1 こども遊園地の在り方</div> <div><ul style="list-style-type: none"><li>・<u>遊器具でなくても、家族で遊べる場所は提供できる</u></li><li>・こども遊園地は、地元で愛着のある施設であるが、<u>時代が変わってきている</u></li><li>・<u>屏風岩は桜の花見ができる絶好のスポット</u>であり、<u>天守閣も見られる良い場所</u>である</li><li>・城址公園の北口から<u>遊園地が続く道は美しいアジサイ</u>が見られる ⇒ 案内がないと歩かない</li><li>・屏風岩西堀法面は、<u>地盤が元々強くない所が崩れた</u>と思われる ⇒ <u>安全面を考慮する</u> (江戸時代の絵図では、崩れた場所に堀があったことが確認できる)</li><li>・家族連れの方は、こども向けの施設が何かしらあるものと思っている</li><li>・屋根のある休憩場所がないため、豆汽車をどこかに展示できると良い</li></ul></div>	<div>(1) 家族で楽しめる小田原城址公園<ul style="list-style-type: none"><li>・こどもを中心に家族で遊べる場所の提供</li><li>・こども遊園地の景観(天守閣、桜等)や歴史的背景の考慮</li><li>・こども向けの施設への期待</li></ul></div> <div>(2) 市民等のこども遊園地への思い<ul style="list-style-type: none"><li>・利用しやすい環境から親しまれる施設</li><li>・こども遊園地の現状等についての理解</li></ul></div> <div>(3) 観光振興<ul style="list-style-type: none"><li>・商品力になる「懐かしさ」</li><li>・小田原城等の歴史や魅力を伝えるにはガイドの役割が大切</li><li>・災害への対応(避難経路等)</li></ul></div> <div>(4) 史跡小田原城跡の整備との整合<ul style="list-style-type: none"><li>・史跡の本質的価値を顕在化するための史跡整備</li><li>・老朽化した観覧車や飛行塔などを撤去</li></ul></div> <div>(5) 遊器具の維持管理等<ul style="list-style-type: none"><li>・屏風岩西堀法面の復旧までの間にさらに進む遊器具の老朽化</li><li>・遊器具の交換部品の調達が困難</li><li>・豆汽車の再開には軌道敷の全面改修が必要</li></ul></div> <div>(6) 遊器具の利用状況と財源の確保<ul style="list-style-type: none"><li>・観覧車や飛行塔などの撤去や、少子化など、子どもを取り巻く環境の変化により、遊器具の利用回数は昭和50年代から60年代は年間110万から120万回程度であったが、年々減少傾向にある ⇒ 直近5か年の利用回数は25万から30万回程度で推移</li><li>・直近5か年における遊器具使用料収入と遊園地管理運営事業費の収支は、毎年度3,000万円程度の赤字である</li></ul></div> <div>【参考】令和7年市議会9月定例会(決算特別委員会 総括質疑)<ul style="list-style-type: none"><li>・遊園地管理運営事業について こども遊園地の収支状況、遊器具利用状況、再開に向けての課題について質問があった。</li></ul></div>
<div>2 観光振興等</div> <div><ul style="list-style-type: none"><li>・全国でこども連れで楽しめるお城はあまりない</li><li>・<u>地域の気持ちを大切にしながらも観光スポットとして盛り上げる切口が最良</u>と考える</li><li>・<u>「小田原こども文化博覧会」や「動物園」の写真を見せると、多くの方が懐かしと思う</u></li><li>・入込観光客数は3年連続で過去最多を更新している ⇒ 天守閣やこども遊園地の存在が大きい</li><li>・家族で来場してもらえれば天守閣の入場者も増えると考えられる (二の丸広場等のイベントにファミリー層が来場すると来場者数の増加につながる)</li><li>・国内では外国人観光客が増えている。昔の観光とは大きく変わってきている</li><li>・観光振興にあたっては災害対応も必要である</li></ul></div>	
<div>3 史跡小田原城跡の整備</div> <div><ul style="list-style-type: none"><li>・時間は要するが、<u>史跡の本質的価値の顕在化</u>を進めている</li><li>・<u>「こども遊園地は遊具の寿命を見据え、段階的に撤去を検討する」</u>との取扱方針である (史跡小田原城跡保存活用計画(令和3年策定))</li><li>・昭和57年以降、銅門の復元、住吉堀や馬出門の整備等を行っている</li></ul></div>	
<div>4 こども遊園地の遊器具の維持管理</div> <div><ul style="list-style-type: none"><li>・遊器具が古いため、<u>修繕部品の調達が苦慮</u>している</li><li>・<u>老朽化に伴い、遊器具の可動部の状態は良くない 延命しても、あと10年程度が使用限度</u>と思われる</li><li>・部品の調達は特注品として製作するため、割高になることもある</li><li>・バッテリーカーのバッテリー等の消耗品は再開時には交換する必要がある</li></ul></div>	
<div>5 こども遊園地の休園</div> <div><ul style="list-style-type: none"><li>・いつ開園するのか、休園を知らなかった。せっかく来たのに残念である</li><li>・懐かしく思い、遊園地に来た。元に戻してほしい</li><li>・史跡整備との兼合で、休園をきっかけに閉園するのではないか</li></ul></div>	

